

令和3年度 学校評価公表シート

学校法人あい学園
認定こども園あい幼稚園

I. 教育方針

生活習慣を身につける
社会のルールを身につける

自然とふれ合い優しい心を育む
命の大切さを学ぶ

II. 教育目標（目指す子ども像）

① 気持ちの良いあいさつや返事ができる子ども

朝の元気な「おはようございます」だけでなく、日常生活の様々な状況に応じたあいさつや返事は『正しい生活習慣が身につけてこそ』だと私たちは考えています。あいさつや返事はもとより、基本的な生活習慣の大切さに気づき、自分からすすんでできる子どもを目指します。

② 自然や命を大切にできる子ども

田園に囲まれた環境、海が近い町という立地を活かし、四季折々の自然体験を通して『土・水・緑・動植物』など様々な『命』とふれ合いながら、それらを大切にできる優しい心の子どもを目指します。

③ ルールを守り、自分で考えて行動できる子ども

社会にはあらゆるルールやマナーが存在し、日常生活を送る上でそれらを見守ることは決してできません。ルールやマナーは思いやりでもあると私たちは考えます。また、自分や他人の命を守るために必要なルールもあります。先生や友だちと一緒に園生活を送る中で、身近な「きまり」や「約束事」をはじめとし、様々なルールやマナーがあることを学びながら、自分で良いことと悪いことを考えて行動できる子どもを目指します。

④ 心豊かでのびのびと活動する子ども

子どもたち一人ひとりが、命ある大切な存在です。また、誰一人として同じ子どもはいません。あそびの中で、こうした一人ひとりの興味・関心・意欲を引き出しながら、自己肯定感を高めていくとともに、自分自身や仲間の個性を尊重できる子どもを目指します。

III. 自己評価項目と取り組み状況

A：出来ている C：一部出来ていない
B：おおむね出来ている D：出来ていない

自己評価項目	評価	取り組み状況	今後の課題
1 教育方針及び教育目標をわかりやすく伝えているか。	B	幼児にはあそびや活動を通して、また掲示物等によって知らせており、特に年長児においては就学を迎える頃には自らが意識して生活できるようになってきている。 保護者にはHPやSNS、掲示物や配布物等を通して発信している。	掲示物やSNS、ICTシステムなどを活用し、保護者に発信する機会を増やしていくとともに、教師自身が幼児の成長とそれがどう教育目標に向かっているのかを語るよう努めていく。

2	幼稚園教育要領および園の教育方針に基づき、地域性等を考慮しながら特色を生かした活動を行っているか。	B	昨年までと同様、立地や環境を活かした保育に取り組む中で、行事やあそび、活動などにおいて教師間で連携を図りながら異年齢の交流も意識して取り組むことができた。	今年度改善してきたことを継続しながら、今後は午後保育とのつながりも考慮しながら取り組んでいきたい。
3	季節や幼児の活動などに合わせて、安心して清潔感のある環境を準備しているか。	B	季節に応じた環境構成などを意識しながら、保育室の整理整頓にも留意してきたが、倉庫など幼児が立ち入らない場所や見えない場所はつい後回しになり乱雑になることもあった。	見えないところにも気を配り、気付いた時には後回しにせずその都度整えるよう心がけていきたい。また、教師間で声をかけ合いながら、定期的に確認する機会を作っていきたい。
4	教師は指導方法や幼児理解について、充実した研究や研修を行っているか。	B	園内外の研修に積極的に参加し、また研修で得た情報は職員間で共有するよう努めてきた。また、研修の参加状況など、SNSや行事予定表などで保護者にも発信してきた。	今後も一人ひとりが向上心を持って研修等に積極的に参加していくとともに、園内研修の充実にも努めていきたい。
5	育ちを促す環境構成や援助の工夫をしているか。	B	個人記録を活用したり、教師間で意見交換したりしながら、多角的に幼児の姿を捉えた上で、一人ひとりに応じた環境構成や援助を工夫するよう努めてきた。	教師間での情報共有や意見交換などの機会を十分に確保しながら、環境構成などマンネリ化することの無いよう、柔軟な姿勢で取り組んでいきたい。
6	教師は日々の教育において評価・反省を行い、次の指導に生かそうとしているか。	B	上司や先輩から受けた助言などを参考にしながら指導を行ったり、職員間で意見交換したことを自身の保育に取り入れたりしてきたが、まだ反省やその記録を十分に生かしているとは言いがたい。	SNSやICTシステムなどを活用しながら、他学年の記録にも目を通す習慣を身に付けると共に、それらと自分の保育・教育とを照らし合わせて振り返ったり、生かしたりできるように努めていきたい。
7	繰り返し援助・指導することで、幼児には基本的な生活習慣が身についているか。	A	一人ひとりの状況に応じた援助、指導を行うとともに、家庭にも園での取り組みを発信し連携を図ってきたことで、それぞれの発達に応じた基本的な生活習慣は身に付いてきているように思われる。	今後も保護者との信頼関係を築きながら連携を図っていくと共に、個々の発達状況を教師間で情報共有しながら一人ひとりに応じた援助・指導を行っていくよう努めていきたい。
8	教師は季節に応じた生活の仕方について、幼児が気付くような援助に努めているか。	B	教師がモデルとなったり、絵本等の教材などを使用して知らせたり、状況に応じて声をかけたりしながら自ら気付いて行動できるよう援助してきた。	年齢によって自分では難しいこともあるが、家庭でも出来る範囲のことは自分で気付くような援助が可能となるよう、園での取り組み状況を保護者に発信し連携を図っていくよう努めていきたい。
9	気持ちのよい挨拶や返事ができるように、教師が率先して実践しているか。	A	幼児のモデルとなるよう努めてきた。目線を合わせたり、状況によっては名前を呼びかけながら挨拶をしたりするよう心がけた。(返事も同様)	マスクを着用していると表情がわかりづらいため、声のトーンや目線でも明るい雰囲気や伝わるように今後も意識していきたい。
10	幼児は園生活を楽しくし、のびのびと活動しているか。	A	幼児が安心して過ごせるよう、また一人ひとりが「おもしろい」「やってみよう」と思えるあそびや活動を見つけられるようかかわってきた。幼児はあそびや活動の中で教師や友だちとふれあい、時にはぶつかり合ったり葛藤したりしながらも、好きなことを楽しんでのびのびと過ごし、心身共に成長していると感じている。保護者からも「子どもたちが幼稚園を楽しくしている」というお声を頂いている。	今後も一人ひとりの個性を尊重しながら、幼児があそびや活動に楽しんで参加できるように配慮すると共に、その中で時には我慢したり譲り合ったりすることも学んでいけるよう、教師間で連携を図りながら努めていきたい。
11	保護者が安心して相談できる信頼関係づくりに努め、適宜、情報提供を行っているか。	B	保護者から相談があった際にはもちろんのこと、保護者や幼児に普段と変わった様子が見られる時にはこちらから声をかけたり、話しやすい雰囲気づくりをしたりするなど心掛けた。	園全体の雰囲気や良くなるためにも『報・連・相』を一人ひとりが心掛け、職員間の関係もより良くしていく。また、目配り・気配り・心配りを大切に、一人ひとりの保護者とより信頼関係を築いていけるよう努めていきたい。

12	保育園、小学校と相互の専門性を生かし、幼児の育ちを保証するための交流を行っているか。	C	今年度もコロナ禍ということで、連絡会の参加など必要最低限のものに留まり、十分な交流等は出来なかった。	今後もこうした状況（コロナ禍）が継続することは十分に考えられるため、その中でも実施可能な活動などを検討していく必要がある。
13	地域での体験活動や行事に参加し、様々な人とかかわりながら教育活動を進めているか。	B	感染対策をしながら、少しずつ地域活動への参加も始まりつつあったが、感染拡大によって中止となるものがほとんどであった。しかし、そのような中でも対面こそ難しかったが、地域の高齢者施設と手作りの品や手紙のやりとりなどを通して交流を持つことはできた。	今後も状況を見ながら出来る範囲で交流を持てるよう、積極的に地域の施設等にアプローチしていくとともに、幼児が地域に興味や関心をもてるよう、散歩に出かける先を工夫したり、行く先々でのような出会いがある教師間で情報共有したりしながら取り組んでいきたい。
14	幼稚園教育を家庭や地域に生かすために、子育て支援の活動（ジュニアクラブの実施や園だよりでの情報提供など）を行い、専門性を発揮しているか。	B	感染拡大防止のため、ジュニアクラブや園庭開放が中止になることもあったが、出来る範囲で実施してきた。ジュニア通信は、地域の公民館などで掲示してもらうようお願いするなどしている。園推薦の図書（育児等に関する書籍）を保護者に貸し出ししたり、園だより等で情報提供などを行ったりした。	現在の取り組みを継続していくことはもちろん、より地域の子育て世代の方々ニーズに応じていけるよう、教師が専門性を高めていくよう努めていきたい。また、関連した新たな資格取得及びそれらを生かした取り組みが出来るように工夫していきたい。

IV. 今後取り組むべき課題

前年度の評価・反省を生かし、主幹教諭を中心に教師間で意見交換したり情報共有したりする時間を確保しながら取り組んできたことにより、昨年度を上回る評価となった。しかし、各項目について概ね達成できたものの、まだ十分に達成できていない項目や改善すべき点も見受けられる。

引き続きコロナ禍ということ踏まえつつ、今後の行事などをどう運営していくか、また地域との連携や情報発信の方法などについても検討していく必要があると考えられる。

引き続き、達成を目指して取り組んでいきたい。

V. 学校関係者の評価

- 園の畑で1年を通して自分たちで野菜や米を栽培・収穫することにより、幼児自身が「食」に興味や関心を持ったり、食べられなかったものが食べられるようになったりと成長が見られた。
- 今年度導入したICTシステム（登園・降園管理/連絡帳機能/お知らせ機能/メール配信機能 等）は保護者と園を繋ぐツールとしても、園児の安全管理としても大変良いと思う。
- せっかく導入したシステムをもっと活用し、日々の保育の中で撮影された写真の販売なども行ってはどうか。
- コロナ禍ではあったが、その中で工夫しながら行事を開催されたことは良かった。一方で、行事等が中止や縮小になるのであれば、ICTシステムやSNSをもっと活用して、保護者に向けて子どもたちの様子を配信するなどしてはどうか。
- 園生活を送る様子からも、子どもたちがのびのびと過ごしている様子が伝わり、先生方の努力を垣間見ることが出来た。